

ネパール地震災害に対する国際消防救助隊の活動概要

参事官

1 地震発生・初動対応

平成27年4月25日（土）15時11分頃（現地時間11時56分頃）ネパールの首都カトマンズ北西約80kmを震源地とするマグニチュード7.8(米国地質調査所(U S G S)発表)の大規模な地震が発生しました。この地震及び5月12日（火）に発生した余震（マグニチュード7.3（U S G S発表））によりネパールの首都カトマンズを中心に死者8千名、負傷者2万名を超える甚大な被害が発生しました。

消防庁では、地震発生直後から、外務省並びに独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）と緊密な調整を行っていました。そして、地震発生当日の25日（土）、ネパール政府が各国に対して支援要請を表明したことを受け、外務省から消防庁への派遣協議があり、翌26日（日）、消防庁長官は国際消防救助隊の派遣を決定し、当日、出動順位第1位であった7消防本部に対して派遣要請がなされ、消防庁1名と7消防本部16名の計17名が国際消防救助隊として、4月26日（日）12時00分までに成田国際空港に集結することになりました。

2 空港集結・発隊・出発

国際消防救助隊17名は4月26日（日）12時に成田国際空港に集結し、国際緊急援助隊救助チームの他のメンバー（外務省、警察、海上保安庁、JICA等）と合流



国際消防救助隊発隊式

し国際緊急援助隊救助チーム結団式に出席した後、国際消防救助隊発隊式を行いました。発隊式では、引き締まった雰囲気の中、高市総務大臣からのメッセージを黒川参事官が代読し、派遣される隊員に伝えられました。その後、出国審査等の手続きを経て、航空機は17時52分にバンコク（タイ）へ飛び立ち、バンコク経由でのネパール入りを目指しました。

- 国際消防救助隊派遣メンバー（17名）
- ・消防庁 …………… 1名
 - ・東京消防庁 …………… 6名
 - ・さいたま市消防局 …………… 3名
 - ・浜松市消防局 …………… 3名
 - ・秋田市消防本部 …………… 1名
 - ・高崎市等広域消防局 …………… 1名
 - ・川越地区消防局 …………… 1名
 - ・富山市消防局 …………… 1名

国際消防救助隊発隊式での高市総務大臣メッセージ

- 昨日、15時11分頃（現地時間11時56分頃）、ネパール連邦民主共和国でマグニチュード7.9の強い地震が発生し、一部報道によるとこれまでに、約1,800の方が死亡するなど、甚大な被害を受けたと伺っております。
- 国際消防救助隊の皆様には、この甚大な被害を受けたネパール政府からの要請を受け、本日ここに集結して頂き、救助活動に当たって頂くことになりました。
- 消防に国境はありません。被災地は非常に厳しい環境であろうかと思いますが、皆様の『愛ある手』で、一人でも多くの方を救出し、被災地の方々のために我が国の高い救助技術を十分に発揮していただきたく、よろしくお願いします。
- 結びに、皆様が任務を立派に果たされ、無事に、日本に帰国されることを御祈念申し上げます。よろしくお願いします。



3 到着・現地での活動

ネパール首都カトマンズのトリブバン国際空港が混雑していた影響により、現地への到着は4月28日（火）の11時45分となりました。

カトマンズに到着した国際緊急援助隊救助チームは、空港での手続き後、現地での被災状況を確認する調査チームを編成し、カトマンズ市内の情報収集を実施するとともに、旧王宮（ハヌマン・ドガ）周辺において、捜索活動を実施しました。



活動場所出発前ミーティング

また、18時（現地時間）からは、国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連との打合せに参加しました。この打合せでは、各国救助チームの捜索範囲や今後の活動方針等が話し合われ、5月2日（土）まで毎日実施されました。

4月29日（水）、30日（木）は国際緊急援助隊救助チームの部隊を2つに分け、旧王宮周辺に加えバクタプール周辺の捜索活動を実施しました。

捜索活動は、救助犬によるサーチの後、隊員が手作業



手作業によるガレキ除去

によりガレキを除去していく方法で行いました。そして、4月29日（水）の捜索活動では、旧王宮周辺において女性1名の遺体を発見しました。

5月1日（金）、2日（土）はカトマンズから東へ約20kmのサクーにおいて調査を行ったところ、9歳の男児が行方不明

であるとの情報があり、全隊を投じて捜索活動を実施しました。捜索活動は、救助犬によるサーチと隊員の手作業によるガレキの除去を中心に行いましたが、発見には至りませんでした。



旧王宮周辺での活動

5月3日（日）、再度サクーでの捜索活動をしていたところ、捜索中の男児は既に発見されたとの情報が入り、この地域での捜索活動を終了。他の活動場所についての情報収集を行いました。

5月4日（月）、5日（火）はネパール武装警察からの依頼に基づき、ゴンガブ地区での捜索活動を実施しました。この地区では、1、2階が座屈した5階建ての建物を中心に活動を行い、構造評価専門家による安全確認を行いながら、建物内の床に穴をあけ、カメラによる要救助者の捜索を行い、建物内に要救助者がいないことを確認していきました。



カメラによる捜索活動

5月5日（火）夕方には、国際緊急援助隊救助チームの団長がネパール武装警察から救助の支援が必要な地区がないとの説明を受け、5月6日（水）に捜索活動を終了することになりました。

4 帰国

5月8日（金）、ネパールでの任務を終えた国際緊急援助隊救助チームは、現地時間13時30分にカトマンズを出発し、バンコク経由で2便に分かれて、5月9日（土）に帰国しました。

帰国後は国際緊急援助隊救助チーム解団式を実施、その後国際消防救助隊解隊式を実施しました。解隊式では、鳥枝総括官（消防庁）の活動報告に続いて、萩森国際消防救助隊長（東京消防庁）から黒川参事官へ国際消防救助隊連帯旗が返還されました。引き続き、黒川参事官から高市総務大臣のメッセージ代読、大野全国消防長会事務総長挨拶があり、最後に写真撮影を行いました。

今回の派遣では、残念ながら生存者の救出には至らなかったものの、気温が35度を超える猛暑の中、また、要救助者や現地の被害状況等の情報把握が困難な状況の中、国際緊急援助隊救助チームの献身的な活動に対して、ネパール政府及び国民より最大限の賛辞が送られています。しかし、これに満足することなく次回以降の派遣活動がより高いレベルで遂行できるように、今回得られた貴重な教訓を生かしていくことを、国際消防救助隊17名は強く感じていました。



国際消防救助隊解隊式にて

現地ではいまだに犠牲者数が増え続けていますが、復興に向けた動きも始まっています。犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、今回の国際消防救助隊の活動が被災者支援の一助となることを願います。

国際消防救助隊解隊式での総務大臣メッセージ

- 国際消防救助隊としてネパールにおける地震災害に派遣された、鳥枝総括官、萩森隊長以下17名の隊員の皆様、本当にご苦労さまでした。
- 今回の派遣では、大変厳しい環境の中での長期にわたる、皆様の献身的な活動について、ネパール国政府やネパール国民から高い評価と謝意が表明されており、日本においても連日大きく報道され、その活動ぶりを見るにつけ、私自身もたいへん心強く感じたところです。そして、国際消防救助隊が国際緊急援助隊の中核となって活動しておられることを総務大臣として誇りに思いました。
- ご家族の方や派遣元の消防本部におかれても、皆様の連日のご活動を誇りに思いながらも、さぞかしご心配されたことと思います。私も、皆様が全員で無事で帰国されたことに安堵しております。
- 皆様におかれましては、今回の経験をそれぞれの職場での活動に活かし、今後も人命救助という困難かつ崇高な任務に引き続き大いにご活躍いただきたいと思います。
- それでは、最後になりますが、隊員の皆様、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

問合わせ先

消防庁国民保護・防災部 参事官付 柳原
TEL: 03-5253-7507